

# 今回の米国の利上げ局面にどう備えるか



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① 前回はNASDAQ100優位

FRB（米連邦準備制度理事会）による金融引き締め懸念が強まりつつある中、足元ではS&P500種株価指数に比べ、主力ハイテク株で構成されるNASDAQ100の下落が目立っています（右上図の赤線）。前回利上げ時の株価動向をみると、利上げ初期段階に、NASDAQ100がS&P500種株価指数に劣後する場面もありましたが、最終的には、NASDAQ100優位の展開となったことがわかります（同図のグレー線）。3月開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）でFRBが利上げに着手することが予想されていますが、今回の利上げ局面に向けて投資家はどのように備えればよいのでしょうか。

## ポイント② 株価は企業業績と連動する傾向

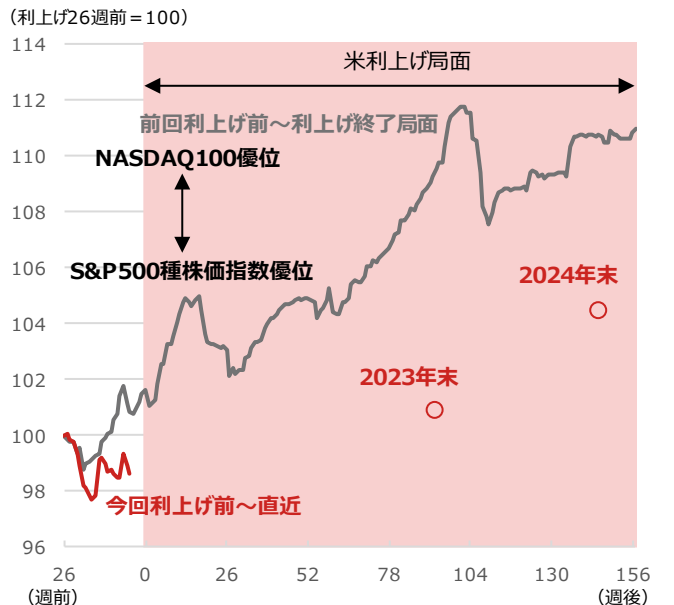
一つのヒントとなるのが指数ごとの業績動向といえます。前回の利上げ局面でNASDAQ100が堅調に推移した背景には、同指数の12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）の伸びがS&P500種株価指数に勝ったことが要因と考えられます（右下図のグレー線）。足元のNASDAQ100の下落は、金融引き締めに伴う金利上昇への警戒感もありますが、S&P500種株価指数と比較して12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）の伸びが劣後していることも影響しているとみられます（同図の赤線）。

ただ、今後の利益予想をもとに両指数の予想EPSを相対化すると、NASDAQ100の利益の伸びがS&P500種株価指数のそれを上回ることが見込まれています。株価は利益に収れんするとの考えに基づくと、長期的な視点ではNASDAQ100の巻き返しが想定されます。利上げ局面を間近に控える中、足元で相対的に弱含んでいるNASDAQ100の下げを拾うのも一手といえるのではないのでしょうか。

## NASDAQ100とS&P500種株価指数の相対指数



## NASDAQ100とS&P500種株価指数のEPS相対指数



\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。